

# Symfoware Active DB Guard V10.1.0



## アップデート情報

Linux

J2UL-1362-01Z0(00)  
2011年4月

# マニュアル体系と読み方

## マニュアル体系と読み方

Symfoware Active DB Guardのマニュアルは、以下の表を参考に目的・用途に合わせてお読みください。

目的・用途	マニュアル名称	記載内容	主な記載項目	読み方
製品のバージョンアップを判断する。	Symfoware Active DB Guardアップ デート情報	バージョンアップした機能の概要と内容を記載しています。	<ul style="list-style-type: none"><li>追加機能の概要</li><li>プログラム修正一覧</li></ul>	以前のバージョンからバージョンアップした内容を知りたい場合に、お読みください。
製品の概要、運用・使用上で必要な基礎となる知識を得る。	Symfoware Active DB Guard解説書	提供する機能全体を、利用目的や利用場面、運用イメージに関連付けて解説しています。	<ul style="list-style-type: none"><li>製品概要</li><li>主要機能</li><li>製品構成</li><li>各機能説明</li></ul>	Symfoware Active DB Guardの導入を検討している場合や初めて使う場合にお読みください。
Symfoware Active DB Guardを利用したシステム設計またはセットアップする。	Symfoware Active DB Guard設計・ セットアップガイド	Symfoware Active DB Guardのセットアップ手順を説明しています。	<ul style="list-style-type: none"><li>設計作業の概要</li><li>設計手順</li><li>セットアップ作業の概要</li><li>セットアップ手順</li><li>運用開始後の変更</li><li>セキュリティ</li></ul>	セットアップ作業の概要、セットアップ手順などを知りたい場合にお読みください。
Symfoware Active DB Guardを運用・管理する。	Symfoware Active DB Guard運用ガイド	Symfoware Active DB Guardを管理および運用するにあたって必要な事柄を説明しています。	<ul style="list-style-type: none"><li>運用概要</li><li>運用パターン</li><li>操作説明</li><li>異常時の運用</li></ul>	Symfoware Active DB Guardの運用などを知りたい場合にお読みください。
Symfoware Active DB Guardのコマンドを利用する。  本マニュアル内の"rdbbc"で始まるコマンドの詳細を確認する。	Symfoware Active DB Guardコマンド リファレンス	Symfoware Active DB Guardの利用および運用に関するコマンドの文法について説明しています。	<ul style="list-style-type: none"><li>コマンドの概要</li><li>コマンドの説明</li></ul>	Symfoware Active DB Guardのコマンドの機能、オプションおよび使用例について知りたい場合にお読みください。
Symfoware Active DB Guardからのメッセージに対して、対処するために参照する。  本マニュアル内の"qdg"または"JYP"で始まるメッセージの詳細を確認する。	Symfoware Server メッセージ集	メッセージの意味、対処方法を説明しています。	<ul style="list-style-type: none"><li>メッセージ</li><li>メッセージの意味</li><li>パラメタの意味</li><li>システムの処理</li><li>利用者の処置</li></ul>	Symfoware Active DB Guardからのメッセージに対して、具体的な対処方法を調べる場合にお読みください。

Symfoware Active DB Guardをインストールする方法については、“Symfoware Server インストールガイド(サーバ編)”を参照してください。

Symfoware Active DB Guardをインストールする場合およびご使用の際の留意事項は、製品に添付されている“ソフトウェア説明書”をお読みください。

# まえがき

---

## 本書の目的

本書は、Symfoware Active DB Guardのアップデート情報を記載しています。

## 本書の構成

本書の構成と内容は以下のとおりです。

### 第1章 新機能

本バージョンで追加した新機能および改善項目について説明しています。

### 第2章 互換に関する情報

互換に関する情報について説明しています。

### 第3章 プログラム修正一覧

プログラムの修正一覧を掲載しています。

## 出版年月および版数

平成23年 4月 初版
-------------

## 著作権表示

Copyright 2007-2011 FUJITSU LIMITED

# 目 次

---

第1章 新機能.....	1
1.1 RLP環境の初期化機能.....	1
1.2 動作OSの追加.....	1
第2章 互換に関する情報.....	2
2.1 コンソールへのメッセージ出力の抑止.....	2
第3章 プログラム修正一覧.....	3
索引.....	13

# 第1章 新機能

本章では、本バージョンで追加したActive DB Guardの新機能について説明します。

## 1.1 RLP環境の初期化機能

RLP環境の初期化機能を提供します。

従来は、RLP閉塞になった後、RLP環境を復旧するためには、Symfoware Serverを停止して、RLPを再作成する必要がありました。本機能を利用することで、RLPが論理的な障害(ディスク媒体の交換を伴わない、RLC容量不足やRERUNログ引継ぎファイルの容量不足などの障害)で閉塞した場合に、簡単な手順、かつ、短時間で復旧が可能になります。



参照

.....  
詳細は、“Active DB Guard 運用ガイド”を参照してください。  
.....

## 1.2 動作OSの追加

動作OSとして以下に対応します。

- RHEL6(Intel64)



参照

.....  
詳細は、“Symfoware Server インストールガイド(サーバ編)”を参照してください。  
.....

## 第2章 互換に関する情報

旧バージョンレベルから変更した機能において、非互換項目と対処方法について説明します。

項目	移行前のバージョンレベル
	9.1.0以前
コンソールへのメッセージ出力の抑止	○

○：非互換あり

－：非互換なし

### 2.1 コンソールへのメッセージ出力の抑止

#### 変更内容

メッセージの出力先が変更になりました。

#### 非互換

従来はシステムコンソールに出力されていたメッセージが、システムコンソールに出力されなくなります。

#### 対処方法

システムログまたはRDBREPORTのメッセージを参照してください。

## 第3章 プログラム修正一覧

本ソフトウェアでは、以前のバージョンレベルで発生した障害が修正されています。

今回のバージョンレベルで吸収された修正内容、および修正番号については、以降に示す表を参照してください。

No.	バージョンレベル	P番号	現象
1	V10.1.0	PG68834	<p>[現象]</p> <p>以下の条件の場合、Symfoware Active DB Guard(以降ADBGと表記)のRLCがqdg20075uのメッセージをシステムログに出力してRLPが閉塞する場合があります。</p> <p>[環境]</p> <p>以下の環境で発生します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Solaris(TM) Operating Systemの場合</li> <li>1) Symfoware Server Enterprise Extended Edition を使用している。かつ、</li> <li>2) Symfoware Active DB Guard を使用している。</li> <li>- Linux64IPFの場合</li> <li>1) Symfoware Server Enterprise Extended Edition または、Symfoware Server Enterprise Edition を使用している。かつ、</li> <li>2) Symfoware Active DB Guard を使用している。</li> </ul> <p>[発生条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1) ADBGのRERUNログを書込み中である。かつ、</li> <li>2) Symfoware Serverがダウンした場合</li> </ul>
2		PG70442	<p>[現象]</p> <p>以下の条件の場合に、以下に示す機能が無応答になる場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Symfoware/RDBのコマンド(*1)。または、</li> <li>- Symfoware Active DB Guardのコマンド(*2)。または、</li> <li>- Symfoware Server Mirroring Controllerのコマンド(*3)。または、</li> <li>- アプリケーション。または、</li> <li>- Symfoware/RDBの停止 (rdbstop)</li> </ul> <p>(*1)現象が発生する可能性のあるSymfoware/RDB のコマンド</p> <p>rdbalidx, rdbdmp, rdbddlex, rdbddlfix, rdbalmsi, rdbfmt, rdbgdcic, rdbgdcsi, rdbrcv, rdbsaload, rdbslod, rdbsuload, rdbunlad, rdbups, rdbupt</p> <p>(*2)現象が発生する可能性のあるSymfoware Active DB Guardのコマンド</p> <p>rdbbcoffline, rdbbcswh</p> <p>(*3)現象が発生する可能性のあるSymfoware Server Mirroring Controller のコマンド</p> <p>dxsvstop, rdbbcswh</p> <p>[環境]</p> <p>以下の環境で発生します。</p> <p>&lt;Symfoware Active DB Guard を利用している場合&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Solaris(TM) Operating Systemの場合</li> <li>1) Symfoware Server Enterprise Extended Edition 9.0.0以降を使用している。かつ、</li> <li>2) Symfoware Active DB Guard 9.0.0以降を使用している。</li> <li>- Linux64IPFの場合</li> </ul>



No.	バージョンレベル	P番号	現象
			<p>1) 以下の組み合わせで製品を使用している。または、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Symfoware Server Enterprise Extended Edition 8.0.0以降を使用している。かつ、</li> <li>- Symfoware Active DB Guard 8.0.0以降を使用している。</li> </ul> <p>2) 以下の組み合わせで製品を使用している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Symfoware Server Enterprise Edition 9.0.0以降を使用している。かつ、</li> <li>- Symfoware Active DB Guard 9.0.0以降を使用している。</li> </ul> <p>&lt;Symfoware Server Mirroring Controller を利用している場合&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>－ Solaris(TM) Operating System、またはLinux64IPFの場合</li> </ul> <p>1) 以下のいずれかの製品を使用している。かつ、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Symfoware Server Enterprise Extended Edition 9.1.0以降または、</li> <li>- Symfoware Server Enterprise Edition 9.1.0以降</li> </ul> <p>2) Symfoware Server Mirroring Controller 9.1.0以降を使用している。</p> <p>[発生条件]</p> <p>&lt;Symfoware Active DB Guard を利用している場合&gt;</p> <p>1) 複写元システムである。かつ、</p> <p>2) システムロググループまたはユーザロググループのRLPがオンライン状態である。かつ、</p> <p>3) 2) のロググループで[現象]で示した機能を実行する。</p> <p>&lt;Symfoware Server Mirroring Controller を利用している場合&gt;</p> <p>1) 正系ノードである。かつ、</p> <p>2) DBミラーリングサービスを開始している。かつ、</p> <p>3) [現象]で示した機能を実行する。</p> <p>※) CPU数が少ない場合や、データベースへの大量更新によるCPUの使用率が高い場合に発生する傾向があります。</p>
3		PG70932	<p>[現象]</p> <p>以下の条件の場合に、以下に示す機能が無応答になる場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>－ Symfoware/RDBのコマンド(*1)。または、</li> <li>－ Symfoware Active DB Guardのコマンド(*2)。または、</li> <li>－ Symfoware Server Mirroring Controllerのコマンド(*3)。または、</li> <li>－ アプリケーション。または、</li> <li>－ Symfoware/RDBの停止 (rdbstop)</li> </ul> <p>(*1)現象が発生する可能性のあるSymfoware/RDB のコマンド</p> <p>rdbalidx, rdbdmp, rdbddlex, rdbddlfix, rdbalmdsi, rdbfmt,rdbgcdic, rdbgcdsi, rdbrcv, rdbsaload, rdbslod, rdbuload, rdbunlad, rdbups, rdbupt</p> <p>(*2)現象が発生する可能性のあるSymfoware Active DB Guardのコマンド</p> <p>rdbbcoffline, rdbbcsw</p> <p>(*3)現象が発生する可能性のあるSymfoware Server Mirroring Controller のコマンド</p> <p>dxsvstop, rdbbcsw</p> <p>[環境]</p> <p>以下の環境で発生します。</p> <p>&lt;Symfoware Active DB Guard を利用している場合&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>－ Solaris(TM) Operating Systemの場合</li> </ul>

No.	バージョンレベル	P番号	現象
			<p>1) Symfoware Server Enterprise Extended Edition 9.0.0以降を使用している。かつ、 2) Symfoware Active DB Guard 9.0.0以降を使用している。</p> <p>－ Linux64IPFの場合</p> <p>1) 以下の組み合わせで製品を使用している。または、 - Symfoware Server Enterprise Extended Edition 8.0.0以降を使用している。かつ、 - Symfoware Active DB Guard 8.0.0以降を使用している。 2) 以下の組み合わせで製品を使用している。 - Symfoware Server Enterprise Edition 9.0.0以降を使用している。かつ、 - Symfoware Active DB Guard 9.0.0以降を使用している。</p> <p>&lt;Symfoware Server Mirroring Controller を利用している場合&gt;</p> <p>－ Solaris(TM) Operating System、またはLinux64IPFの場合</p> <p>1) 以下のいずれかの製品を使用している。かつ、 - Symfoware Server Enterprise Extended Edition 9.1.0以降または、 - Symfoware Server Enterprise Edition 9.1.0以降 2) Symfoware Server Mirroring Controller 9.1.0以降を使用している。</p> <p>[発生条件]</p> <p>&lt;Symfoware Active DB Guard を利用している場合&gt;</p> <p>1) 複写元システムである。かつ、 2) システムロググループまたはユーザロググループのRLPがオンライン状態である。かつ、 3) 同一のロググループを使用しているデータベースに対して以下のいずれかの操作を実行する。 3-1) 更新系のSQL文 (INSERT文、DELETE文、UPDATE文)。または、 3-2) [現象]の(*1)で示したSymfoware/RDBのコマンド。 4) 3)の操作を大量に同時実行する。</p> <p>&lt;Symfoware Server Mirroring Controller を利用している場合&gt;</p> <p>1) 正系ノードである。かつ、 2) DBミラーリングサービスを開始している。かつ、 3) 同一のロググループを使用しているデータベースに対して以下のいずれかの操作を実行する。 3-1) 更新系のSQL文 (INSERT文、DELETE文、UPDATE文)。または、 3-2) [現象]の(*1)で示したSymfoware/RDBのコマンド。 4) 3)の操作を大量に同時実行する。</p> <p>※) CPU数が少ない場合や、データベースへの大量更新によるCPUの使用率が高い場合に発生する傾向があります。</p>
4		PG74545	<p>[現象]</p> <p>以下の発生条件の場合に、Symfoware/RDBがコアを出力して異常終了する場合があります。シスログに出力するエラーメッセージは以下のとおりです。</p> <p>qdg02842u:シグナル11を受信したため RDBIIシステム空間が異常終了しました (システム名=XXX)</p> <p>[環境]</p> <p>動作システムが以下の場合に発生します。</p> <p>&lt;Symfoware Active DB Guard を利用している場合&gt;</p> <p>－ Solaris(TM) Operating Systemの場合</p> <p>1) Symfoware Server Enterprise Extended Edition 9.0.0以降を使用している。かつ、 2) Symfoware Active DB Guard 9.0.0以降を使用している。</p> <p>－ Linux64IPFの場合</p>

No.	バージョンレベル	P番号	現象
			<p>1) 以下の組み合わせで製品を使用している。または、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Symfoware Server Enterprise Extended Edition 8.0.0以降を使用している。かつ、</li> <li>- Symfoware Active DB Guard 8.0.0以降を使用している。</li> </ul> <p>2) 以下の組み合わせで製品を使用している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Symfoware Server Enterprise Edition 9.0.0以降を使用している。かつ、</li> <li>- Symfoware Active DB Guard 9.0.0以降を使用している。</li> </ul> <p>&lt;Symfoware Server Mirroring Controller を利用している場合&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>－ Solaris(TM) Operating System、またはLinux64IPFの場合</li> </ul> <p>1) 以下のいずれかの製品を使用している。かつ、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Symfoware Server Enterprise Extended Edition 9.1.0以降または、</li> <li>- Symfoware Server Enterprise Edition 9.1.0以降</li> </ul> <p>2) Symfoware Server Mirroring Controller 9.1.0以降を使用している。</p> <p>[発生条件]</p> <p>&lt;Symfoware Active DB Guard を利用している場合&gt;</p> <p>1) 複写元システムである。かつ、</p> <p>2) RLPがオンライン状態である。かつ、</p> <p>3) アプリケーションによるデータベースの更新</p>
5		PG74556	<p>[現象]</p> <p>以下の発生条件の場合に、副系ノードのデータベースにデータが反映されない場合があります。その結果、下記の現象が発生する場合があります。</p> <p>&lt; Symfoware Active DB Guardを利用している場合 &gt;</p> <p>被災時センタ切替え後に、複写先システムのデータベースをSQLアプリケーションにより参照または更新すると、利用者が意図しない処理結果(*1)が得られる場合があります。</p> <p>&lt; Symfoware Server Mirroring Controllerを利用している場合 &gt;</p> <p>DBミラーリングシステムの縮退後に、新正系ノードのデータベースをSQLアプリケーションにより参照または更新すると、利用者が意図しない処理結果(*1)が得られる場合があります。</p> <p>*1: 以下の場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- データなし (SQLSTATE:02000)</li> <li>- 基数違反 (SQLSTATE:21000)</li> <li>- 一意性制約違反 (SQLSTATE:23000)</li> </ul> <p>[環境]</p> <p>動作環境が以下の場合に発生します。</p> <p>&lt; Symfoware Active DB Guardを利用している場合 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>－ Solaris(TM) Operating Systemの場合</li> </ul> <p>1) Symfoware Server Enterprise Extended Edition 9.0.0～9.2.0を使用している。かつ、</p> <p>2) Symfoware Active DB Guard 9.0.0を使用している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>－ Linux64IPFの場合</li> </ul> <p>1) 以下のいずれかの製品を使用している。かつ、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Symfoware Server Enterprise Extended Edition 8.0.0～9.2.0または、</li> <li>- Symfoware Server Enterprise Edition 9.0.0～9.1.0</li> </ul> <p>2) Symfoware Active DB Guard 8.0.0～9.0.1を使用している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>－ LinuxEM64Tの場合</li> </ul> <p>1) 以下のいずれかの製品を使用している。かつ、</p>

No.	バージョンレベル	P番号	現象
			<p>- Symfoware Server Enterprise Extended Edition 9.1.0または、 - Symfoware Server Enterprise Edition 9.1.0 2) Symfoware Server Mirroring Controller 9.1.0を使用している。</p> <p>[発生条件]</p> <p>&lt;Symfoware Active DB Guard を利用している場合&gt;</p> <p>1) 複写元システムである。かつ、 2) RLPがオンライン状態である。かつ、 3) データベースを更新するアプリケーションを実行する。かつ、 4) 3)を実行中または実行後に、複写先システムでrdbbcdiscvコマンドによる被災時のRLPの復旧を行う。かつ、 5) 複写先システムでrdbbcextコマンドによるRERUNログ抽出を行う。かつ、 6) 複写先システムでrdbbcrefコマンドによるRERUNログ反映を行う。</p> <p>&lt;Symfoware Server Mirroring Controller を利用している場合&gt;</p> <p>1) 両ノードのDBミラーリングサービスを起動する。かつ、 2) データベースを更新するアプリケーションを実行する。かつ、 3) 2)を実行中または実行後に、自動ノード切り替えが行われる。または、 dxswitchコマンドによるノード切り替えを実施する。</p> <p>※処理内部のタイミングに依存するため、発生条件に該当しても現象が発生しない場合があります。</p>
6		PG74840	<p>[現象]</p> <p>以下の発生条件の場合に、コマンドが無応答になる場合があります。</p> <p>[環境]</p> <p>動作システムが以下の場合に発生します。</p> <p>&lt;Symfoware Active DB Guard を利用している場合&gt;</p> <p>ー Solaris(TM) Operating Systemの場合</p> <p>1) Symfoware Server Enterprise Extended Edition 9.0.0を使用している。かつ、 2) Symfoware Active DB Guard 9.0.0を使用している。</p> <p>ー Linux64IPFの場合</p> <p>1) 以下の組み合わせで製品を使用している。または、 - Symfoware Server Enterprise Extended Edition 8.0.0～9.0.1を使用している。かつ、 - Symfoware Active DB Guard 8.0.0～9.0.1を使用している。</p> <p>2) 以下の組み合わせで製品を使用している。</p> <p>- Symfoware Server Enterprise Edition 9.0.0～9.0.1を使用している。かつ、 - Symfoware Active DB Guard 9.0.0～9.0.1を使用している。</p> <p>ー Linux64EM64Tの場合</p> <p>1) 以下の組み合わせで製品を使用している。または、 - Symfoware Server Enterprise Extended Edition 9.1.0を使用している。かつ、 - Symfoware Active DB Guard 9.1.0を使用している。</p> <p>2) 以下の組み合わせで製品を使用している。</p> <p>- Symfoware Server Enterprise Edition 9.1.0を使用している。かつ、 - Symfoware Active DB Guard 9.1.0を使用している。</p> <p>&lt;Symfoware Server Mirroring Controller を利用している場合&gt;</p> <p>ー Solaris(TM) Operating System、Linux64IPF、またはLinux64EM64Tの場合</p>

No.	バージョンレベル	P番号	現象
			<p>1) 以下のいずれかの製品を使用している。かつ、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Symfoware Server Enterprise Extended Edition 9.1.0または、</li> <li>- Symfoware Server Enterprise Edition 9.1.0</li> </ul> <p>2) Symfoware Server Mirroring Controller 9.1.0を使用している。</p> <p>[発生条件]</p> <p>&lt;Symfoware Active DB Guard を利用している場合&gt;</p> <p>1) 複写元システム(データベースから差分ログを取得するシステム)で、</p> <p>以下のいずれかのコマンドを実行する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• rdbstart(*1)</li> <li>• rdbrcvdic(*1)</li> <li>• rdbstop(*1)</li> <li>• rdbbconline(*2)</li> <li>• rdbbcoffline(*2)</li> <li>• rdbbcswh(*2)</li> </ul> <p>(*1)Symfoware Serverのコマンド (*2)Symfoware Active DB Guardのコマンド</p> <p>&lt;Symfoware Server Mirroring Controller を利用している場合&gt;</p> <p>1) 正系ノード(業務で利用されるデータベースサーバ)で、</p> <p>以下のいずれかのコマンドを実行する。または、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• rdbstart(*1)</li> <li>• rdbrcvdic(*1)</li> <li>• rdbstop(*1)</li> <li>• dxsvstart(*2)</li> <li>• dxsvstop(*2)</li> <li>• rdbbcswh(*2)</li> </ul> <p>(*1)Symfoware Serverのコマンド (*2)Symfoware Server Mirroring Controllerのコマンド</p> <p>2) ノード切り替え後の副系ノード(ミラー化しているデータベースサーバ)でdxrebuildコマンドを実行する。</p> <p>※処理内部のタイミングに依存するため、発生条件に該当しても現象が発生しない場合があります。</p>
7		PG75140	<p>[現象]</p> <p>以下の発生条件の場合に、dxrebuildコマンドがコアを出力して異常終了する場合があります。</p> <p>dxrebuildコマンドが出力するメッセージは以下のとおりです。</p> <p>SYMFOWARE_SYMDX: ERROR: 32004: dxrebuildコマンドの処理途中で異常が発生しました(システム名=XXX)</p> <p>また、システムログに出力するエラーメッセージは以下のとおりです。</p> <p>qdg02842u:シグナル6を受信したため RDBIIシステム空間が異常終了しました (システム名=XXX)</p> <p>[環境]</p> <p>動作システムが以下の場合に発生します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ー Solaris(TM) Operating System、Linux64IPF、またはLinux64EM64Tの場合</li> </ul> <p>1) 以下のいずれかの製品を使用している。かつ、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Symfoware Server Enterprise Extended Edition 9.1.0～9.2.0または、</li> </ul>

No.	バージョンレベル	P番号	現象
			<p>- Symfoware Server Enterprise Edition 9.1.0 2) Symfoware Server Mirroring Controller 9.1.0を使用している。</p> <p>[発生条件]</p> <p>1) 正系ノードのDBミラーリングサービスを起動する。かつ、 2) 1)を実行中にSymfoware/RDBに何らかの異常が発生し、Symfoware/RDBが緊急停止する。かつ、 3) 2)で異常が発生したSymfoware/RDBを起動する。かつ、 4) 正系ノードのDBミラーリングサービスを起動する。かつ、 5) 副系ノードのDBミラーリングサービスを起動する。かつ、 6) 自動ノード切り替えが行われる。または、dxswitchコマンドによるノード切り替えを実施する。かつ、 7) 4)のノードにてdxrebuildコマンドを実行する。</p> <p>※処理内部のタイミングに依存するため、発生条件に該当しても現象が発生しない場合があります。</p>
8		PG75274	<p>[現象]</p> <p>以下の発生条件の場合に、dxrebuildコマンドがコアを出力して異常終了する場合があります。</p> <p>dxrebuildコマンドが出力するメッセージは以下のとおりです。</p> <p>SYMFOWARE_SYMDX: ERROR: 32004: dxrebuildコマンドの処理途中で異常が発生しました(システム名=XXX)</p> <p>また、システムログに出力するエラーメッセージは以下のとおりです。</p> <p>qdg02842u:シグナル6を受信したため RDBIIシステム空間が異常終了しました (システム名=XXX)</p> <p>[環境]</p> <p>動作システムが以下の場合に発生します。</p> <p>ー Solaris(TM) Operating System、Linux64IPF、またはLinux64EM64Tの場合</p> <p>1) 以下のいずれかの製品を使用している。かつ、 - Symfoware Server Enterprise Extended Edition 9.1.0～9.2.0または、 - Symfoware Server Enterprise Edition 9.1.0 2) Symfoware Server Mirroring Controller 9.1.0を使用している。</p> <p>[発生条件]</p> <p>1) Symfoware/RDBのコマンド(*1)を実行する。かつ、 2) 正系ノードのDBミラーリングサービスを起動する。かつ、 3) 副系ノードのDBミラーリングサービスを起動する。かつ、 4) 自動ノード切り替えが行われる。または、dxswitchコマンドによるノード切り替えを実施する。かつ、 5) 2)のノードにてdxrebuildコマンドを実行する。</p> <p>(*1)現象が発生する可能性があるSymfoware/RDBのコマンド</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• rdbalidx</li> <li>• rdbdmp</li> <li>• rdbddlex</li> <li>• rdbddlfix</li> <li>• rdbalmdsi</li> <li>• rdbgcdic</li> <li>• rdbgcdsi</li> <li>• rdbrcv</li> <li>• rdbmrddmp</li> </ul>

No.	バージョンレベル	P番号	現象
			<ul style="list-style-type: none"> <li>•rdbmrrecv</li> <li>•rdbsetrp</li> <li>•rdbunladt</li> <li>•rdbups</li> <li>•rdbtrtr</li> <li>•rdbrls</li> </ul> <p>※処理内部のタイミングに依存するため、発生条件に該当しても現象が発生しない場合があります。</p>
9		PG74876	<p>[現象]</p> <p>以下の発生条件の場合、DBミラーリングサービスのコマンドが無応答になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•ノードの強制切替え(dxswitch)</li> <li>•DBミラーリングサービスの通常停止(dxsvstop)</li> <li>•副系ノードのDBミラーリングサービスの保守停止(dxsvstop -m)</li> <li>•副系ノードのDBミラーリングサービスのリカバリ停止(dxsvstop -r)</li> </ul> <p>[環境]</p> <p>動作システムが以下の場合に発生します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•Solaris(TM) Operating System</li> <li>•Linux64IPF</li> </ul> <p>1) Symfoware Server Enterprise Extended Edition 9.1.0以降または、Symfoware Server Enterprise Edition 9.1.0以降を使用している。かつ、  2) Symfoware Server Mirroring Controller 9.1.0以降を使用している。</p> <p>[発生条件]</p> <p>1) 正系ノード、副系ノードのDBミラーリングサービスを起動。かつ、  2) 正系ノードで業務運用が行われデータベース更新が行われている。</p> <p>ただし、内部処理のタイミングにより、条件が一致しても発生しない場合があります。</p>
10		PG75385	<p>[現象]</p> <p>以下の発生条件を満たす場合、Symfoware Server Mirroring Controllerのdxrebuildコマンドを実行すると、システムログに以下のメッセージを出力し、コマンドがエラー終了します。</p> <p>" 32012: Abnormality occurred by an internal command.Search information='エラー詳細情報'"</p> <p>[環境]</p> <p>以下の環境で発生します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>－ Solaris(TM) Operating System、またはLinux64IPFの場合</li> </ul> <p>1) 以下のいずれかの製品を使用している。かつ、  - Symfoware Server Enterprise Extended Edition 9.1.0～9.2.0または、  - Symfoware Server Enterprise Edition 9.1.0  2) Symfoware Server Mirroring Controller 9.1.0を使用している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>－ LinuxEM64Tの場合</li> </ul> <p>1) 以下のいずれかの製品を使用している。かつ、  - Symfoware Server Enterprise Extended Edition 9.1.0または、  - Symfoware Server Enterprise Edition 9.1.0  2) Symfoware Server Mirroring Controller 9.1.0を使用している。</p> <p>[発生条件]</p> <p>1) RDBディクショナリまたは、RDBディレクトリファイルに何らかの異常が発生している。かつ、</p>

No.	バージョンレベル	P番号	現象
			2) Symfoware/RDBが停止状態である。かつ、 3) dxrebuildコマンドを実行する。
11		PG72009	<p>[現象]</p> <p>&lt; Symfoware Active DB Guard を利用している場合 &gt;</p> <p>以下の条件の場合、複写元システムでRLCの強制交替 (rdbbcswhコマンド) を実行した後、複写先システムにRLC交替が通知されない場合があります。</p> <p>この状態が続いた場合、空きRLC数の減少を示す qdg20157w のメッセージが出力されます。</p> <p>さらにこの状態が続いた場合、空きRLCが無くなりRLP満杯によりRLPが閉塞する場合があります。</p> <p>&lt; Symfoware Server Mirroring Controller を利用している場合 &gt;</p> <p>以下の条件の場合、空きRLC数の減少を示す qdg20157w のメッセージが出力され、その後、正系ノードでRLPが閉塞する場合があります。</p> <p>※) qdg20157w: 空きRLCがRLC_NOEMP_WARNで定義した値以下になりました RLC個数='空きRLC数' RLP名='RLP名'</p> <p>[環境]</p> <p>以下の環境で発生します。</p> <p>&lt; Symfoware Active DB Guard を利用している場合 &gt;</p> <p>・Solaris(TM) Operating Systemの場合</p> <p>1) Symfoware Server Enterprise Extended Edition 9.0.0以降を使用している。かつ、 2) Symfoware Active DB Guard 9.0.0以降を使用している。</p> <p>・Linux64IPFの場合</p> <p>1) 以下の組み合わせで製品を使用している。または、 - Symfoware Server Enterprise Extended Edition 8.0.0以降を使用している。かつ、 - Symfoware Active DB Guard 8.0.0以降を使用している。 2) 以下の組み合わせで製品を使用している。 - Symfoware Server Enterprise Edition 9.0.0以降を使用している。かつ、 - Symfoware Active DB Guard 9.0.0以降を使用している。</p> <p>&lt; Symfoware Server Mirroring Controller を利用している場合 &gt;</p> <p>1) 以下のいずれかの製品を使用している。かつ、 - Symfoware Server Enterprise Extended Edition 9.1.0 以降または、 - Symfoware Server Enterprise Edition 9.1.0 以降 2) Symfoware Server Mirroring Controller 9.1.0 以降を使用している。</p> <p>[発生条件]</p> <p>&lt; Symfoware Active DB Guard を利用している場合 &gt;</p> <p>・発生条件1</p> <p>1) 複写元システムと複写先システムの両方でRLPがオンライン、コネクション状態である。かつ、 2) 複写元システムでRLC強制交替 (rdbbcswhコマンド) を実行する。かつ、 3) 複写元システムで2)の直後に同一RLPに対するRLCの破棄 (rdbbcrlic -Pコマンド) を実行する。</p> <p>・発生条件2</p> <p>1) 複写元システムと複写先システムの両方でRLPがオンライン、コネクション状態である。かつ、 2) 複写元システムでアプリケーションを実行する。かつ、</p>



No.	バージョンレベル	P番号	現象
			<p>3) 複写元システムで2)の動作中に当該RLPに対するRLCの破棄(rdbbcrlic -Pコマンド)を実行する。</p> <p>&lt; Symfoware Server Mirroring Controller を利用している場合 &gt;</p> <p>・発生条件1</p> <p>1) 正系ノードである。かつ、  2) DBミラーリングサービスを開始している。かつ、  3) RLCの強制交替を実施する。</p> <p>・発生条件2</p> <p>1) 正系ノードである。かつ、  2) DBミラーリングサービスを開始している。かつ、  3) 正系ノードでアプリケーションを実行する。</p> <p>※) 内部処理のディスパッチタイミングに依存するため、上記の発生条件に一致した場合でも発生しない場合があります。</p>

# 索引

---

## [R]

RLP環境の初期化機能.....[1](#)

## [た]

動作OSの追加.....[1](#)

## [は]

プログラム修正一覧.....[2,3](#)